



金比羅山（馬敷）のメガソーラー開発中止と豊かな緑の保全に関する請願

（要旨）

金比羅山（飯塚市馬敷）の林地（約 17 万 3 千平方メートル）を開発するメガソーラー事業計画（太陽光パネル約 3 万 7 千枚設置）が進行中です。事業計画主は「日本エネルギー総合システム株式会社」（代表取締役・黒淵裕美氏 香川県高松市林町 1964-1）となっています。

山麓に位置する飯塚市馬敷地区で、住民の生活基盤と命が守られてきたのは、ゆたかな森林が保たれてきたことに拠ります。「限界集落」という言葉がありますが、馬敷地区住民が、孫子の代まで、安心して住み続けられる施策こそが、今、求められています。

今回、計画の開発が行われた場合、大規模な森林伐採が土砂災害や水害の危険を増大させるのは明らかです。まして、今回の「西日本豪雨」、逆走した「台風 12 号」のような、今までの経験が役に立たない異常気象が起こる中、命に関わる自然災害を拡大させる温床となり、この地域の過疎化に拍車をかけることにもなります。

よって、飯塚市議会が、馬敷地区住民が安心して住み続けられるよう、今回、メガソーラー開発中止を関係業者と関係機関に申し入れ、豊かな緑を守るため尽力されるよう請願します。

（理由）

この飯塚市馬敷地区は、急峻な斜面の谷地に位置しながらも、住民が永年にわたり稲作を中心とした農業で生計を立ててきました。今では、通常価格の 2 倍で取引される米が生産される優良な水田も存在します。

谷地のため、雨が降るとたちまち河川は滝のような状況になり、氾濫寸前となることもしばしばです。平成 15 年 7 月 19 日に、飯塚市で 1 時間に 83.0mm、1 日で 267.0mm（気象庁データ）を記録する豪雨となり大きな被害をもたらした時でさえ、馬敷地区は、緑豊かな森林に守られて、数軒の家屋への被害ですみ、死傷者もなく過ごすことができました。今年の西日本豪雨（7 月 6 日）では、飯塚市で 1 時間に 53.0mm、1 日で 338.0mm（気象庁データ）を記録し、数カ所で大きな土砂災害も発生しています。日照りの続く夏でさえ、農業用水に困らず、何とか稲作を営むことができるのも緑豊かな森林のおかげです。

馬敷地区には、急峻な「馬敷川」と「岡谷川」の 2 つの河川が流れています。そのため、福岡県県土整備部砂防課が作成した「土砂災害警戒区域等マップ」、および飯塚市が作成した「土砂災害ハザードマップ」において、馬敷地区の家屋の所在地はほとんどが「土砂災害警戒区域（イエローゾーン）」、または「土砂災害特別計画区域（レッドゾーン）」に隣接しています。この指定区域を決定する際の資料において、「金比羅山の林地開発」はまったく想定されておりません。異常気象が観測される中、「金比羅山の林地開発」が行われた場合、「馬敷川」と「岡谷川」の 2 つの河川が合流する下流域の他地区にも、どのような災害を及ぼすのか、はかり知れません。

さらに、この馬敷地区には、いまだに炭坑の坑道跡の影響があり、地面の陥没も見られます。地質的に崩れやすい個所も多く存在しており、開発予定の「金比羅山」も地下には、現在でも管理を必要とする坑道が存在し、同様に危険な場所です。

以 上

平成30年9月5日

飯塚市議会議長 藤 浦 誠 一 様

請願者



紹介議員

川 上 直 喜